

芝浦地区 運河ルネサンス計画



令和4年8月1日

芝浦運河ルネサンス協議会

目次

1. 目標・基本方針

2. 区域及び推進方針

3. 運河ルネサンスによるまちづくり構想：評価と今後の展開

4. 水域の利用に関する構想

5. 実現に向けて（具体的提案）

1. 目標・基本方針

芝浦運河ルネサンスとは

芝浦地区は、

～江戸時代～ 良漁場が広がる自然豊かな漁村。

～明治初期～ 鉄道が開通すると、海水浴や潮干狩りができる行楽地・花街へ。

～明治後半からの昭和初期～

埋立てにより、新たな産業や工場、港湾関係の物流・倉庫が立地すると、港町としての産業・住宅地へ。

～昭和後期から平成～

港の発展に伴って不要になった倉庫などの港湾関係の施設が移転すると、業務ビルやマンションが林立し、一時は都心に近いホットなウォーターフロントとして注目される。

時代とともに、芝浦の地区が大きな変貌を遂げるなか、『芝浦運河』は、位置などは当時のままであり、地域の目まぐるしい移り変わりをみてきました。その芝浦運河を、東京都の運河ルネサンス構想に沿って、再生する取り組みが芝浦運河ルネサンスです。

東京都の運河ルネサンス構想

東京の水辺の魅力の向上や観光振興に資するため、運河などの水域利用とその周辺におけるまちづくりが一体となり、地域の賑わいや魅力を創出することを目的とし、地元が主体となって以下を推進する。

- ・ 観光振興に資する賑わいの創出
- ・ 新たな運河利用の発掘など、水辺の魅力向上
- ・ 運河周辺地域の活性化

1. 目標・基本方針

芝浦地区の目標

前出の構想を受けて、芝浦地区では、

*地域の暮らしをはぐくむ、『芝浦』運河の再生
～愛着と賑わいのある運河を目指して～*

芝浦地区に住み、働く人々にとって、使いやすく、安心でき、楽しめる、そんな『芝浦』の運河に、地域自らが取り組み運河の再生を目指します。

さらに、このような取り組みを通して「*運河のある町、芝浦*」をアピールするとともに、地域に訪れに人々にとっても楽しい、運河を活かしたまちづくりを推進していきます。

芝浦運河ルネサンス協議会とは

上記の目標を推進する体制として「芝浦運河ルネサンス協議会」が以下の経緯で組織されました。

平成16年 「運河ルネサンス地域協議会」が地元町会を中心として発足。（当初は6団体）

平成17年3月 「芝浦運河ルネサンス計画（芝浦地区）」（初版）を作成。

平成17年5月 当協議会を東京都へ登録。

平成17年6月 東京都により「運河ルネサンス推進地区（芝浦地区）」の指定完了。

以後、芝浦地区のまちづくりにかかわる協議を重ねながら現在に至ります。（令和4年4月現在 13団体）

1. 目標・基本方針

運河ルネサンスの基本方針

基本方針1. 安心して歩ける運河の回遊性の創出

芝浦運河では、防災対策を兼ねた運河沿いを散策できる遊歩道が整備されてきていますが、橋梁部分で分断され連続して歩けない部分や運河沿いの緑地や植栽が足りない区域もあります。区や都と協力しながら遊歩道の連続性や緑地の整備を進めます。

合わせて、運河遊歩道の認知度向上と、安心して利用ができるような案内板や散策マップの作成なども取り組み、住民や在勤者にとって使いやすい運河となるように推進していきます。

基本方針2. 運河における賑わい創出

愛着と賑わいのある運河づくりを実現していくためには、芝浦地区に住み、働いている人々が、これまで以上に、『芝浦』の運河に対して理解や関心を深めていくことが必要です。

そのために、

- ・ 運河水路と運河沿い遊歩道のネットワーク、防災船着場等、既存ストックの活用
- ・ 新たな水辺に親しめるエリアの開発推進（事業者の取り組みへの積極的な協力）
- ・ 運河クルーズ、マルシェ、ミニシンポジウム等のイベントを自ら企画・実施などの活動を通じて、賑わいと魅力のある運河を創出していきます。

基本方針3. 地域ではぐくむ運河づくりの取り組みを推進

芝浦地区の住民、在勤者が自ら運河に愛着を持ち、心地よい場所にしていく意識を持ってもらうため、

- ・ 町会・自治会および在勤者が協力して清掃活動、運河沿緑地への植栽活動を行っていきます。
- ・ 継続してきた地元小学校の子供たち向け運河環境学習の取り組みが、さらに充実するよう支援していきます。

図1 運河ルネサンス芝浦地区の「区域」及び「推進方針」

2. 区域及び推進方針

町会活動区域と同じ

芝浦運河ルネサンスの対象区域は、芝浦地区の4町会

- ・ 芝浦一丁目町会
- ・ 芝浦二丁目町会
- ・ 芝浦三四丁目町会
- ・ 海岸二三丁目町会

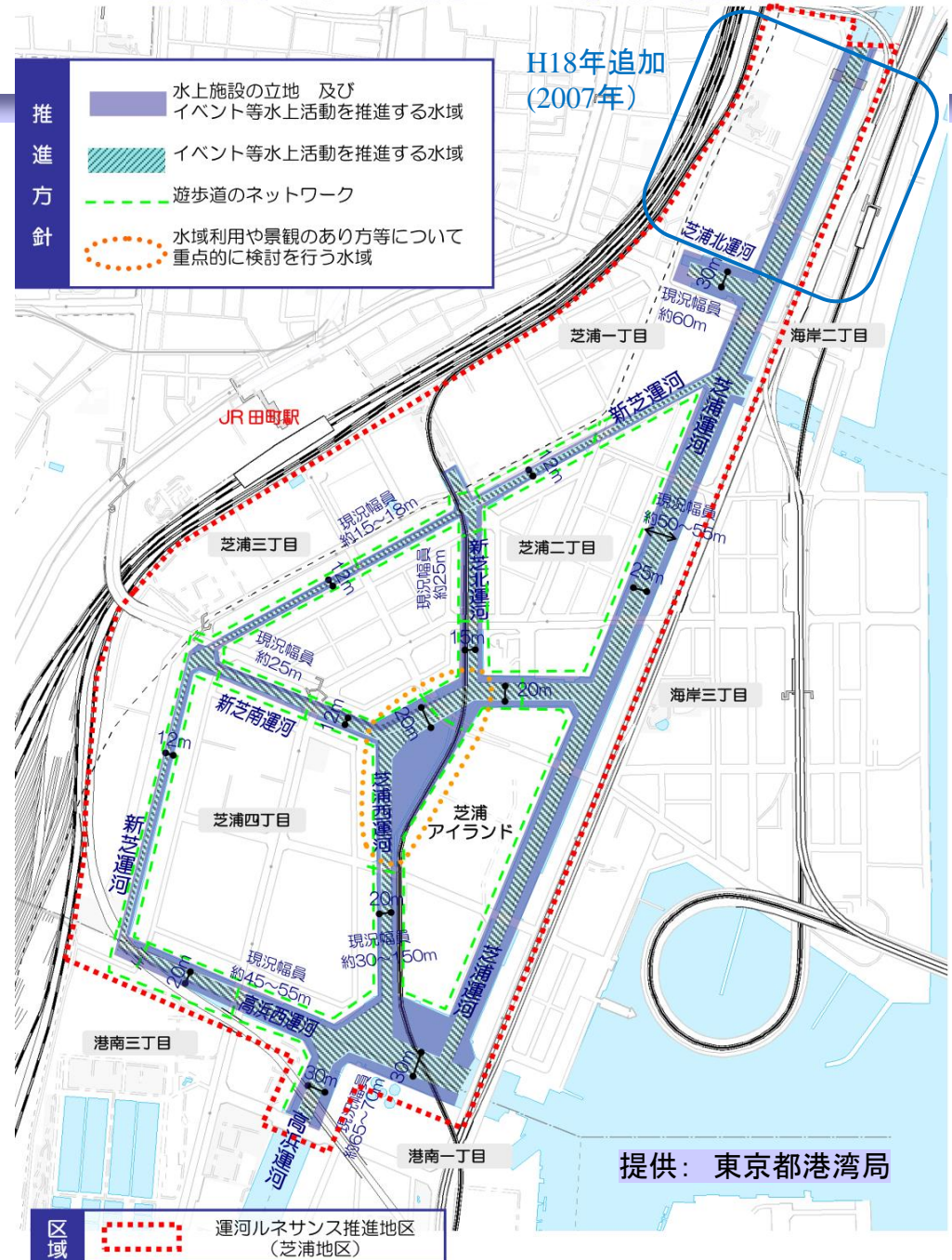
の活動区域と同じです。

※青色点線区域は平成18年（2007年）に追加されています。

推進方針

推進地区内の

- ・ 地元町会、商店会および舟運事業者と連携し、
- ・ 運河水路と運河沿い遊歩道のネットワークや防災船着場などのインフラを活用しながら運河の賑わい創出を推進していきます。



3. 運河ルネサンスにおけるまちづくり構想：評価と今後の展開

スタート時 (2007年) の構想

芝浦地区の運河をテーマとした環境学習の実施

- 既に実施されているように、芝浦地区の運河を学習フィールドとした環境学習（総合学習）を、近隣の小学校などと連携し、拡大、展開する

柵付防災船着場の地元による活用（クルーズのイベント等）と、管理

- 内部護岸の整備に伴い設置されている柵付防災船着場を開放し、地元により、イベント等の活用等、施設の管理を行う。

運河沿い遊歩道を活用した、フリーマーケット等による賑わいの創出

- 薬塩橋～竹芝橋間の運河沿い遊歩道を活用したフリーマーケット（約300区画）イベントの開催。

芝浦地区の運河沿い遊歩道の回遊化

- 運河沿い遊歩道と背後との連続性を確保する。
- さらに内部護岸が整備されて開放されていない場所の開放化や新たな運河沿い遊歩道の整備を進め、地区全体の回遊性を高める。

芝浦地区の運河クルーズイベントの定期的な実施

- 既に実施されたように、芝浦地区の運河を、地元を含め、より多くの人々に広報、認知されるよう、船を活用したクルーズイベントを定期的に開催する。

運河沿い遊歩道の清掃等、地元等によるアドプト制度等の導入

- 新たに創出された遊歩道において、周辺住民など、地元等による清掃活動等のアドプト制度を導入し、快適な運河の環境の維持を図る。

歩道環境の改善（3つの橋梁の一体化）

- 運河沿い遊歩道の連続性や日常の利便性を確保するため、3つの橋梁の一体化（ペDESTリアンデッキ等）を図る。

水辺広場の創出

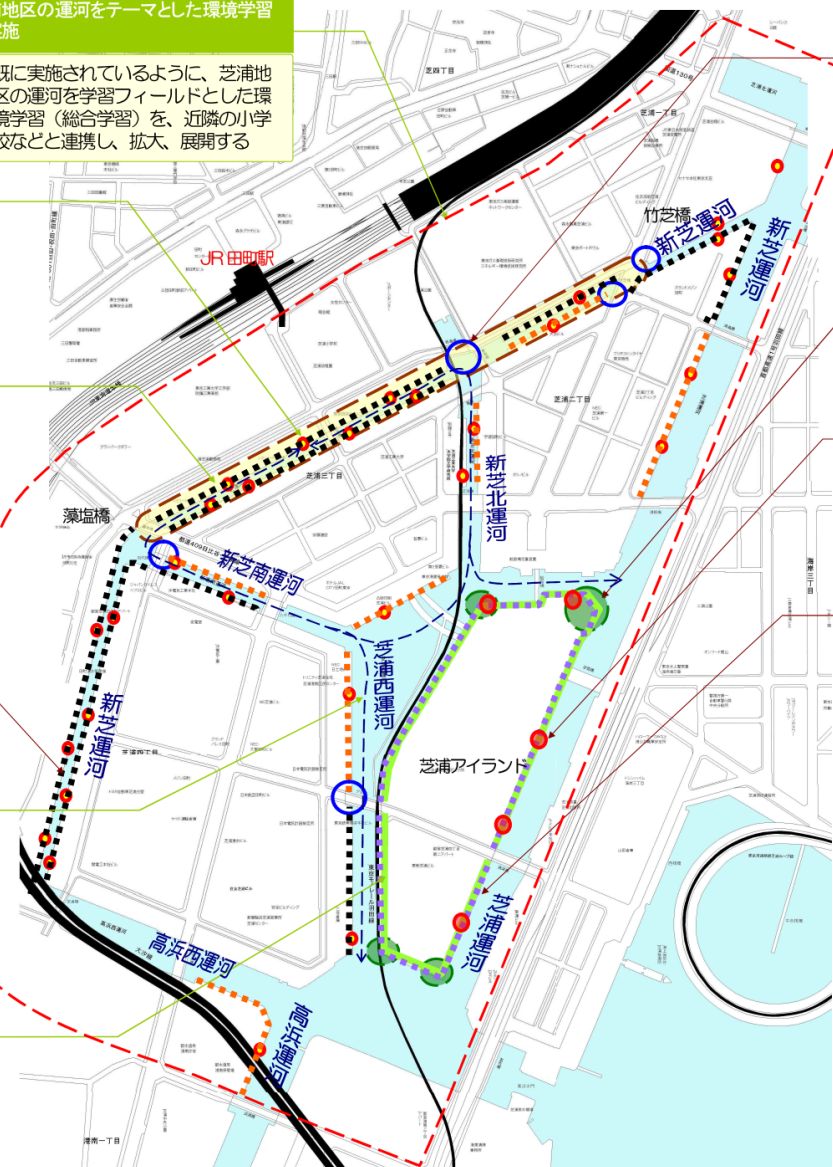
- 芝浦アイランドを周遊する遊歩道に沿って、快適な水辺環境や良好な景観を提供する、芝生等の広場的な空間を創出する。

水上交通に対応した護岸の創出

- 災害時の避難、緊急物資輸送、また平常時の水上バス等の利用可能な護岸を確保する。

景観性、快適性に配慮したアイランド地区内の回遊性の創出

- 芝浦アイランド周囲の遊歩道では、緑地との一体化、植栽等を実施し、散策環境としての快適性を創出し、回遊性を確保する。



凡 例	
赤のボックス	緑のボックス
施設等整備に関する構想	ソフトの取り組みに関する構想

- 現状の運河沿い遊歩道（現状）
- 内部護岸整備済で開放されていない区間
- 運河沿い遊歩道の整備計画のある区間
- 運河沿い遊歩道と橋梁等との不連続の解消
- 水辺広場空間の創出
- 水上交通に対応した護岸の創出
- 柵付防災船着場

3. 運河ルネサンスにおけるまちづくり構想：評価と今後の展開

評価と今後の展開

スタート時（2007年）に掲げた構想が、2022年4月現在で、どの程度達成されているかを評価し、今後の展開へつなげていきます。今後の展開が必要な項目は、後述の「**実現に向けて（具体的な提案）**」で提案します。

施設等整備に関する構想

【評価基準】 ○：概ね達成 △：着手・実行中 ×：未着手

	構想テーマ	評価	今後の展開
1	芝浦地区の運河沿い遊歩道の回遊化	○	スタートから十数年で、大部分で遊歩道の整備・連続化は進んでいる。今後の連続化工事は1か所（竹芝橋：2024年以降）が予定されている。回遊性については、達成している。 当協議会として、案内表示板や運河散策MAPなどを企画提案していきます。
2	歩道環境の改善（3つの橋梁の一体化）	×	3つの橋梁（鹿島橋、香取橋、霞橋）の一体化ではなく、各橋梁を個別に架け替えする方針へ転換し、工事進行中。 ※2022年現在、鹿島橋の架け替え済整備方針転換のため、当協議会としての対応は特に無し。
3	水辺広場の創出	○	芝浦アイランドの開発完了とともに達成している。2022年より、芝浦北運河エリアにおいて「芝浦一丁目まちづくり計画（芝浦プロジェクト）」がスタートした。運河沿いに、2棟の複合ビル（事業所・住居・ホテル）と水辺広場と棧橋を備えた複合施設である。芝浦運河の新たな賑わい創出につながると期待される。 当協議会として、地域へ貢献する開発計画となるよう働きかけをしていきます。
4	水上交通に対応した護岸の創出	○	芝浦アイランドの開発完了とともに達成している。
5	景観性、快適性に配慮したアイランド地区内の回遊性の創出	○	芝浦アイランドの開発完了とともに達成している。

3. 運河ルネサンスにおけるまちづくり構想：評価と今後の展開

ソフトの取り組みに関する構想

【評価基準】 ○：概ね達成 △：着手・実行中 ×：未着手

	構想テーマ	評価	今後の展開
1	芝浦地区の運河をテーマとした環境学習の実施	○	ここ10年以上、地元小学校における運河環境学習として実施されている。子供達にとってたいへん意義ある活動なので、 当協議会として、運河環境学習の取り組みを積極的に支援していきます。
2	柵付防災船着場の地元による活用（クルーズのイベント等）と、管理	△	「芝浦運河祭り」の際に、運河クルーズや地域対抗ボートレースを年1回実施するにとどまっている。 当協議会として、水辺に注力したイベントを企画し、地域へ積極的な働きかけをしていきます。
3	運河沿い遊歩道を活用した、フリーマーケット等による賑わい創出	△	「芝浦運河祭り」の際に、フリーマーケットを数年間実施したが、マンネリ化により集客が少なくなったため終了。 その後、キッチンカーによるキャナルカフェを年間180日実施し継続中。 当協議会として、キャナルカフェ、定期的な物産マルシェ、フリーマーケットなどを組み合わせ、賑わいが継続していくようなイベントを企画し、地域へ積極的な働きかけをしていきます。
4	芝浦地区の運河クルーズイベントの定期的な実施	△	「芝浦運河祭り」の一環としての年1回の運河クルーズとは別に、2015年12月より東京ウォータータクシー(株)による水辺タクシーが運航開始した。 利用客の増加が望まれる。 当協議会として、クルーズイベントの企画など、地域での積極的な利用を働きかけていきます。
5	運河沿い遊歩道の清掃等、地元等によるアドプト制度等の導入	△	地元町会・自治会による運河沿い遊歩道（芝浦アイランドなど）の定期的な清掃活動が行われている。またボランティアの方々により、運河遊歩道上の一部エリアについてアドプト制度利用による植栽活動が実施されている。 当協議会として、清掃活動や植栽活動など運河沿い遊歩道的美観を向上していく活動を応援していきます。(2022年8月1日訂正)

4. 水域の利用に関する構想

運河（水域）からまちを眺めると、まちの表情も普段とは違って見えます。

また、橋の下、水鳥の群れ、飛び跳ねる魚など普段は気づかなかったことが体験できます。

そんな体験を、水域の更なる利活用を通じて地域の人々に提供していきます。

地域へ提供していきたい体験（継続中含む）

- ・ 運河クルーズ 継続中
- ・ 自然観察（カニ護岸、カルガモ巣作り） 継続中
- ・ カヌー体験
- ・ ボート体験
- ・ 釣り体験
- ・ 運河水面の清掃活動

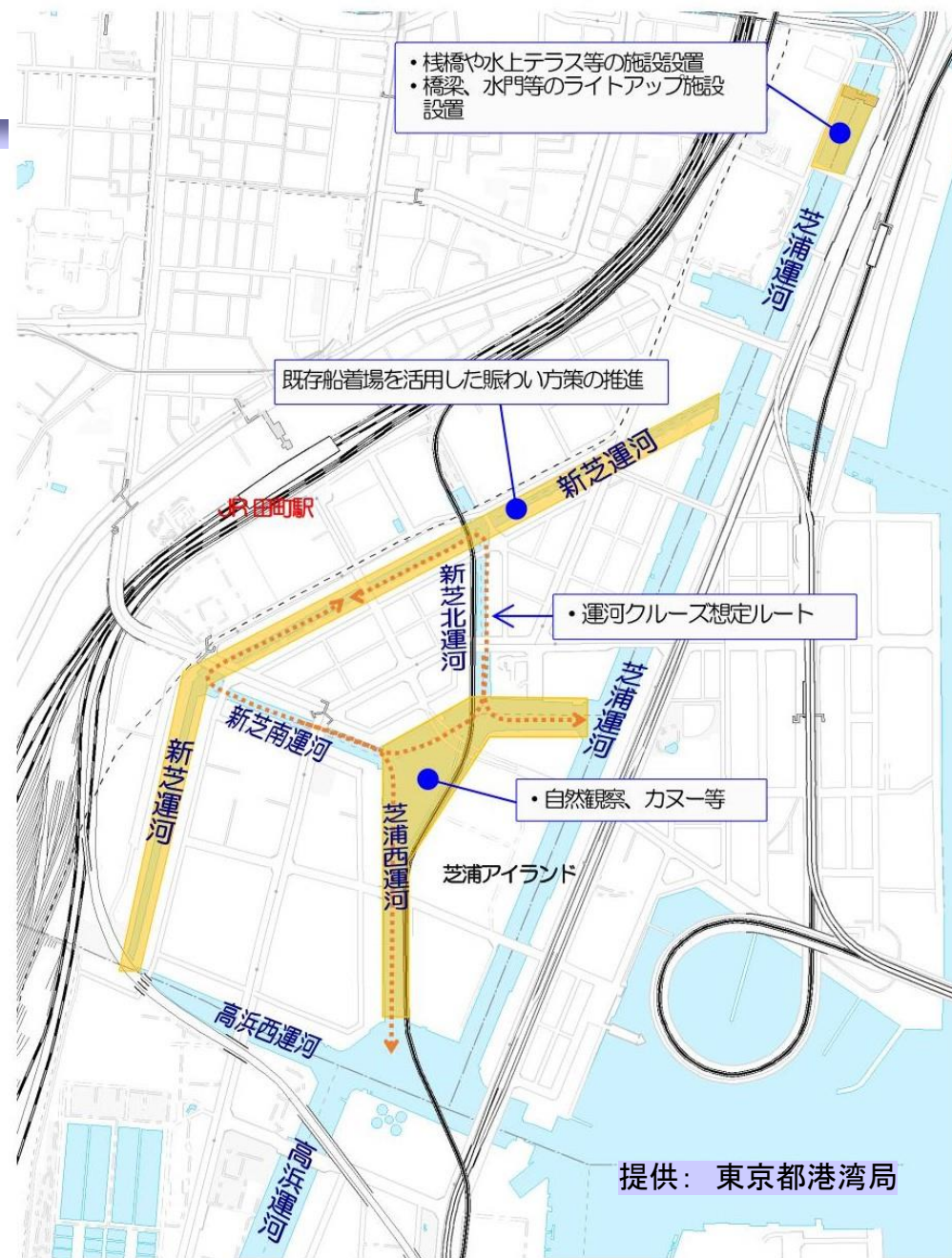


図 今後の水域の利用に関する構想案

5. 実現に向けて（具体的提案）

5-1. 芝浦運河の回遊性と緑化推進

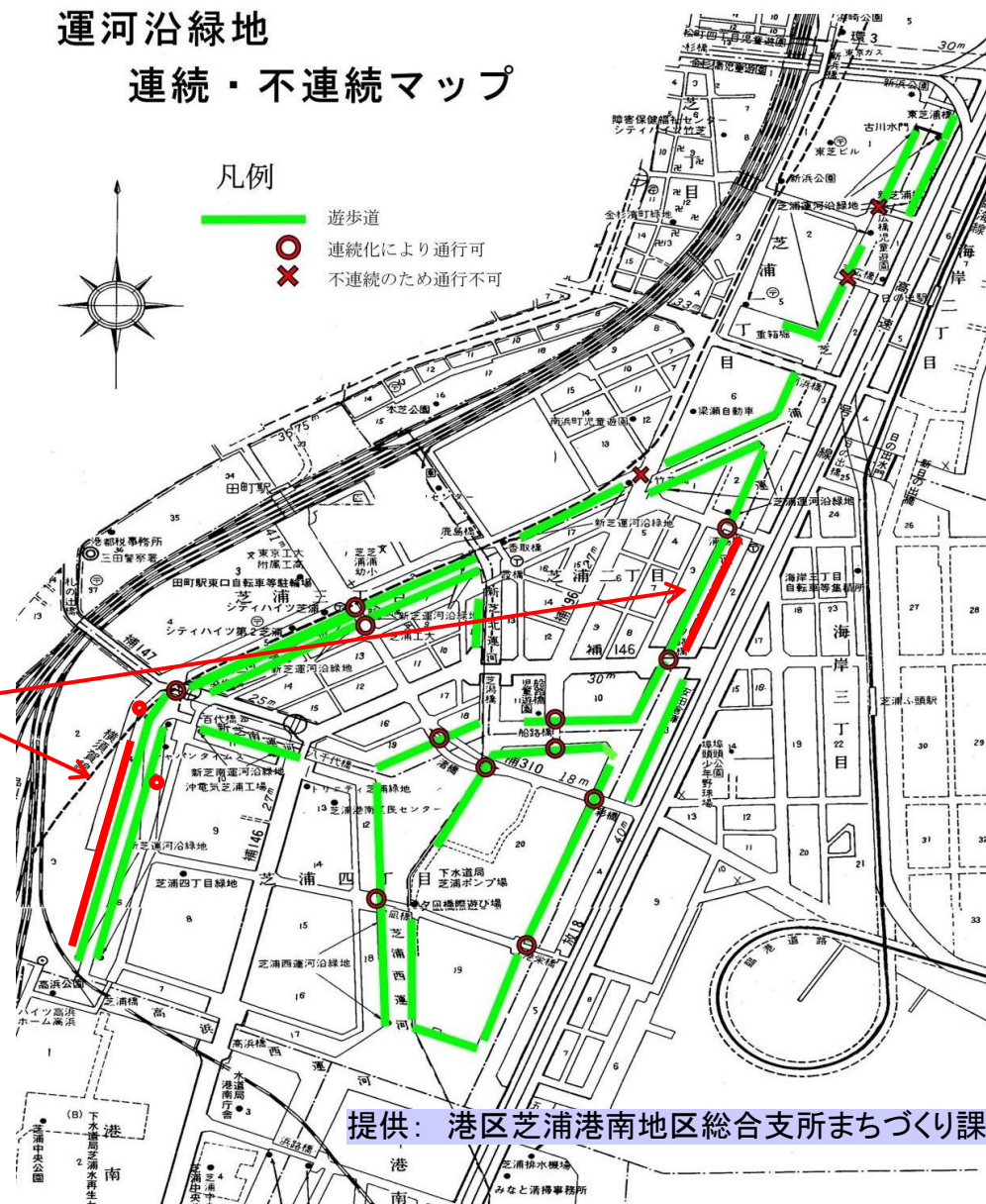
芝浦運河では、ここ十数年の間、右図に見られるように運河沿い遊歩道及び緑化の整備が進み、継続性も大部分が達成されています。
また、一部ボランティア団体・個人により港区のアドプト制度を利用した植栽も行われています。

今後は、

- 1) 案内表示板や運河散策MAPなどを提案していきます。
- 2) アドプト制度利用による植栽活動エリアの拡大を地域へ提案していきます。

アドプト制度利用による植栽活動エリア

運河沿緑地 連続・不連続マップ



5. 実現に向けて（具体的提案）

5-2. 芝浦運河を題材にした環境学習の充実と継続

1. 取り組みの主旨(目的)

運河ルネサンスの目標である“地域の暮らしをはぐくむ運河の再生”を、大人だけでなく、子どもたちからの視点でも進めていくことが重要であると考えております。そのため、協議会として、運河を題材とした環境学習活動の拡大、推進に向けた支援に取り組んでいきます。

- 子どもたちに、地元の運河への関心、理解を深めてもらう
- 子どもを通じて保護者(親)に対しても認知を深めていく
- 将来的には、運河を有する臨海5区での展開を想定し、子どもたちの調査や研究の発表の場としてのミニシンポなどへの展開

2. 取り組みの内容

1) 市民団体である「運河を美しくする会」(平成2年より活動、令和3年3月解散)が芝浦小学校向けに実施していた運河環境授業を始まりとし、2010年～2012年には、渚橋付近に水中イカダを設置し、芝浦運河の生き物を観察する研究も取り入れた体験学習が実施された。

2) 2014年から当協議会会員のNPO法人「海塾」が引き継ぎ、運河クルーズを取り入れた、より水辺に関心を持てる運河環境学習となって今に至る。

【学習内容】

- ・運河の生き物観察
 - ・高潮対策の水門見学
 - ・生活で利用する水と運河の水質との関係
- 上記の学習がより充実できるよう支援していきます。



5. 実現に向けて（具体的提案）

5-3. 防災船着場の活用と運河クルーズイベントの充実

1. 取り組みの主旨(目的)

運河の賑わい創出イベントとして、スタートした「芝浦運河まつり」(2004年4月、JR田町駅東口リニューアル記念として開催、以後毎年実施)を核として、2022年5月現在で整備された防災船着場を有効活用しながら、芝浦地区の住民、在勤者に運河に親しんでもらうことが目的です。芝浦運河は楽しいと思ってもらえるような雰囲気づくりを目指します。

2. 取り組みの内容

1) 過去に実施した「芝浦運河まつり」を評価し、より楽しいまつりになるよう、地域の町会へ協力する。

【芝浦運河まつりの実績】 (<http://shibaura-canal.com>より抜粋)

2005年



2007年



~

2019年



2021年



2) 船での防災避難訓練や運河水面の清掃活動、カヌー体験などのイベントを推進する。

3) 遊歩道護岸、または船による「こども釣り体験」などのイベントを推進する。

5. 実現に向けて（具体的提案）

5-4. 運河遊歩道を利用した継続的な賑わい創出イベントの開催

1. 取り組みの主旨（目的）

防災インフラとして整備された芝浦運河沿い遊歩道を、地域の人たちが楽しく集える場所となるような仕組み作りをめざします。

2. 取り組みの内容

- ・現在継続中の「チャンネルカフェ」
- ・芝浦運河まつりで過去に実施したフリーマーケット
- ・物産マルシェ

などを単独ではなく、**同時に定期的開催し、地域の人たちが喜んで参加してもらえる仕組み**を企画し、地元町会・自治会・事業者へ働きかけをしていきます。



5. 実現に向けて（具体的提案）

5-5. 新たな船着場・水辺広場の創出（芝浦プロジェクト）

1.事業の目的

「芝浦プロジェクト」において、都市再生への貢献として、水辺の観光・にぎわい拠点の創出及び、東京の舟運活性化を目的とした、芝浦運河の親水空間整備をいたします。

2.事業場所

右図に記載する「芝浦プロジェクト」計画地に面する芝浦運河水域上

3.事業主体

芝浦一丁目地区まちづくり協議会(予定)

4.事業内容

①浮棧橋及び連絡橋(スロープ)

⇒浮棧橋を複数の旅客船の運航会社に対して利用開放し、芝浦運河の舟運利用に寄与いたします。

②水上テラス

⇒運河・水辺に近づいて親しむことを目的としたテラスを整備します。また、「芝浦プロジェクト」の中心に位置する「(仮称)セントラルプラザ」と行き来も可能であり、まちの賑わいを運河の賑いへ繋がめます。

③運河床テラス

⇒運河・水辺を眺めるテラスを整備します。椅子やテーブル等を配置し、休憩をしながら運河に親しむことのできる空間を整備いたします。

5.全体計画図



【備考】

※②水上テラス及び③運河床テラスは、設計意見等により形状の変更や面積の縮小を行う可能性があります。

※「芝浦プロジェクト」は段階的な開発を予定しており、水域施設もこれに連動して、段階的な整備を予定しています。